

全国から応援に来ています!

福島県各地に、全国から様々な方達が応援に来てくれています。そんな頼れる皆さんからのメッセージをお伝えします。



千葉県山武市社会福祉協議会
高地 抄貴さん

千葉から応援に来ています。ただいま2回目の福島入りです。実家が福島県内のため、特別な想いがあります。地域性を重視した、地元出身者ならではのお手伝いできれば、と思っております。皆さんと一緒に頑張らせてください。



わかやまNPOセンター
土橋 一晃さん

和歌山から福島に応援に来ています。新地町災害ボランティアセンターで活動していましたが、全国から大勢のボランティアの皆さんが福島の人々を見守り支えています。あなたが笑うまで、走りたくなくなる道があるからこそ、福島の人々を全国の皆さんが応援しています。

ボランティアの皆さんにその「思い」をお聞きしました。

南相馬市 原町区



今年の3月で解雇になり、何かしたいと思ってボランティア登録しました。持ち主の分からないアルバムや賞状などを洗浄する活動をした時、自宅を津波で流された友人の小学校時代の卒業証書を見つけ、本当にびっくりしました。同時にこのお手伝いをしてよかったと思いました。私がボランティアセンターに通い続けることは、自宅に引きこもりがちな両親にとってもいい刺激になっているようです。その日の出来事を報告する度に、両親は「うん、うん」と聞いてくれます。報告を聞きながら、お世話になった皆さんに感謝しているんだと思います。
(Y・Hさん 原町区在住 30代 女性)

圧倒的にガソリンが不足していた3月下旬にボランティア登録しました。当時私は、屋内退避と自主避難勧告を受けた地域で、孤立してしまってお年寄りの皆さんの安否確認を兼ね生活物資を届けたり、買い物支援などのお手伝いをしていました。皆さん首を長くして待っていて「神様のように思える」と言ってくださる方もいました。復興という目標に向かって前進していくボランティアの皆さんのパワーに、ボランティアの僕が励まされています。
(T・Fさん 原町区在住 20代 男性)

実家が二本松市ということもあり、居ても立ってもいられず、会社に特別休暇を願い出ました。薬剤師の免許を持っているので市民病院で事務のお手伝い等を行っています。東京にいるときは、被災された皆さんの状況が分からず心配でたまりませんでした。でも、今は違います。復興を目指す皆さんと一緒にいると、「やれる!」「すごいぞ!福島県民!」と思わずにはいられません。たくさんの友人もできました。「いつか絶対に「相馬野馬渡」を見たい!」とも言われています。いつか絶対に見に来たいです。
(M・Sさん 東京都江戸川区在住 40代 女性)

5.4 ボランティアバス 郡山⇄いわき



アビスパ福岡の大ファンでベガルタ仙台との試合を楽しんでいたらよもやの大震災。少しでもお役に立ちたいと思ってボランティアバスに申し込みました。今日は、津波の被害で泥がたまって水が流れなくなった側溝の泥かきをしました。すべてを元通りにするまでには、たくさんの時間が必要だろうと思います。これからもずっと応援していきますので、自分たちのようなボランティアの力を借りながら少しずつでも普段の暮らしを取り戻して行ってほしいと思います。
(K・Nさん 福岡県在住 40代 男性)

実家が東北にある同僚から被害の様子を聞いて、自分でも何かしたいとずっと思っていました。ゴールデンウィークを利用して、自己満足にならない活動をしたと思って情報収集しているときにボランティアバスに出会いました。目的と作業が明確、自己負担も少なく、コーディネートも十分な企画で参加してよかったと思いました。ボランティアは、これからも自分にやれることを続けていきたいと思っています。きっと表に出てきていないボランティアニーズがまだまだあると思うので、ぜひ、掘り起こしてボランティア志願者につないでほしいです。
(Y・Mさん 埼玉県在住 40代 男性)



福島県に友達がいるのと、ニュースを見ていて何かしたいと思って参加しました。一人で側溝の泥かきをするのは大変ですけど、今日みたいに大勢が協力すると大変な作業も短時間でできます。みんなの力って本当にすごいと思いました。ぜひ、続けていきたいです。
(M・Mさん 新潟県在住 20代 女性)

大震災以降、ずっと何かしたいと思っていました。ゴールデンウィークこそ思っていたので迷わず参加しました。私は運転をしないのでボランティアバスは、とても助かりました。今日は、地域の皆さんの家が続く一角で側溝の泥かきのお手伝いをしました。テレビや新聞では、そこで暮らす皆さんのことまで分かりません。でも、実際に来てみると、一生懸命日常を取り戻そうとしている様子が伝わってきて胸が熱くなりました。また、時間を作って参加したいです。
(N・Uさん 東京都在住 20代 女性)



被災をされた方へ

「ひとりでできる身体ほぐし」

動きの少ない避難生活だからこそ、健康のために意識して身体を動かしましょう。今回は、背中をほぐす運動メニューをご紹介します。肩こり防止にもおすすめです。できるなら①から⑤までを3回続けてみましょう。

◎動け! 肩甲骨

①顔の前で両手を合わせます

②合わせた手を左右に開きましょう。(肘は肩の高さ、手のひらを外向きに)。



③肘から先を直角に上に向けた形で肘を後ろに張り、肩甲骨が動くのを意識します。

④そのまま両手を上に上げ、肩甲骨が上がるのを意識しながら10秒数えましょう。

⑤ゆっくり両手を下ろしましょう。



(特定非営利法人福島県レクリエーション協会 事務局長 佐藤喜也)

ボランティアの活動を支えてください 福島県災害ボランティア支援募金にご協力を!

福島県社会福祉協議会では、災害ボランティア活動のための支援資金を募集しています。ボランティアの皆さんが、様々な支援活動を継続していただけるようにご支援ください。

- ◎受付期間:平成23年3月25日(金)から平成24年3月23日(金)まで
- ◎募金受入口:東邦銀行(0126) 渡利支店(124) 普通預金394361
振込先名 福島県災害ボランティア支援募金(フクシマケンサイガイボランティアシエンボキン)
※東邦銀行本支店間の窓口においての振込手数料は不要。
ATMでの振込みの場合は、各金融機関所定の手数料等が必要となります。
- ◎現金書留による送金:〒960-8141 福島県福島市渡利字七社宮111 社会福祉法人 福島県社会福祉協議会宛
※封筒に「災害ボランティア募金」と明記してください。郵便料金はかかります。
- ◎領収書の発行:領収書の必要な場合は、福島県社会福祉協議会に直接ご連絡ください。

お問い合わせ先 社会福祉法人福島県社会福祉協議会 TEL:024-523-1251 FAX:024-523-4477

編集後記

県民の災害支援に携わっている様々な皆さま、お疲れ様です。私もこの震災で実家を失くしましたが、県災害ボランティアセンターの一員として応援し続けます。一緒に頑張りましょう! (たかおか)

赤い羽根共同募金



がんばろう、福島。

最新情報はホームページで
ご覧ください!
<http://www.pref-f-svc.org>

